

県民協働の推進に関する研究会（第6回） 議事要旨

- 1 日 時：平成 28 年 3 月 28 日（月） 13:30～14:30
- 2 場 所：大津合同庁舎 7－A 会議室
- 3 出席者委員：深尾昌峰座長、阿部圭宏座長職務代理
浅野智子委員、植西正寿委員、川村美津子委員、坂下靖子委員、
秦憲志委員
- 4 議事次第
 - (1) 開会
 - (2) 滋賀県協働推進ガイドラインについて
 - (3) 平成 28 年度滋賀県協働推進施策について
- 5 議事の経過
 - 委員の主な意見は、以下のとおり。
 - ・いわゆる県で取り組むものは、項目がたくさん出ているので、中期的、5 年ぐらい見据えて、計画的に取り組んでほしい。
 - ・NPOバンクの話は、若干唐突感がある気はする。NPOバンクだけを捉えて少し、クローズアップされているというのには、何か理由があるのか。いま滋賀県でこういうNPOバンクみたいなものを、あえて調査研究をやられるというところの中の背景とかがあれば教えていただきたい。
 - ・この時期にあえてこういうことをやるということの、少し裾野感を広げておいた方が、いい。金融機関と連携した場合の話であったり、休眠預金みたいなものを前提に、どういうふうなデザインにするかみたいなのが、たぶん重要になってくるとすると、旧来のこういうNPOバンクというものではない可能性がある。
 - ・以前「協働ネットしが」で、自治体単位のデータベースを持っていて、そのサーバーを、経費が大変だということで、県の方で引き取って、それがなくなった。いま、法人検索もできなくて、内閣府まで移って、内閣府のデータベースが今後どうなるかという話も聞いたりしている。
 - ・NPOサイドの入力の手間というのが結構ある。サイトを持っているところ、いろいろなウェブのほかの仕組みを使おうと思うと、CANPANの仕組みとかを使わざるを

得なくなった。

- ・CANPANのあえて仕組みでやっている、結局別サイトで見られるみたいな団体が、またここで入れるという手間が。ただ二重になって、「協働ネットしが」に登録するメリットは何だという話になる。

- ・前の「協働ネットしが」のときは任意団体も登録できた。何もメリットを感じない団体は全然登録してこないから、結果的に登録数が増えない。登録数が増えないとデータベースとしてほとんど活用できないという面がある。そのところ、もう少しやっていただくときには、考えてもらわないと、巨大な構想をしていただいても効果が上がらないということになりかねない。

- ・作成に際しては、4月には各NPOの方にはアンケートを採って、その意向も踏まえた上で作成したいと思っていますし、経産省については、NPO法人だけではなくて、任意団体、公益法人等も含めて、幅広いかたちで取り組んでいきたい。

- ・協働プラットフォームですが、定期的な開催、開催のイメージ、どんな感じになるのか教えてほしい。

- ・協働と言わなくてよくなる時代をどうつくっていくかとか、そういうある意味で、特別視しなくても、それが当たり前になっていくような仕組みとか、意識みたいなものが必要なかもしれない。

- ・ガイドラインはもちろん、県庁の中で使われると思うが、市との連携も、情報提供や研修でなどに呼び掛けていただきたい。

- ・「協働ネットしが」の登録も、県内一括の見えるかたちというのも大事であるので、各市町の連携というのでもできないものか。NPO法人以外の、いろいろな団体の協働提案事業に提案したり、市と連携など、団体も登録できて、各市町も活用できるようなかたちでの登録があり、団体側にもメリットが付くような、そんな工夫もいるのかなと思う。

- ・情報発信や広報が大事になってくると思う。この協働プラットフォームに関して、「協働ネットしが」に期待するところが非常に大きい。いろいろな場面で分かりやすく情報発信をしていって、最初は機運を醸成し、市町の事業や企業との包括協定など分かりやすいような事例も採り上げていただいて、盛り上げていただきたいと思う。

- ・評価とフィードバックとは、県民の福祉にどれだけ貢献したかというようなことだと思う。

- ・評価は一つでなくてもいいと思う。協働の発展を図る評価ですから、そういう意味ではそういうトライ・アンド・エラーを幾つかやってみながら、少し納得感をどう納税者に説明をするか。もしくは納税者の行動を促していくような評価の在り方みたいなものも非常に大事かもしれない。

- ・このプラットフォームの例えば、3年後、5年後を描いておいた方がいいのかなと思う。この中でいろいろな事業評価もされていこうし、協働の事例というのもここから生まれていくというのも、きっちりと評価できるような仕組みというのをつくってお

かないと、どこへ行くのか見えにくくなるような気がする。

・行程表というか、少しただ単に集まってという場ではないので、そういう意味ではどのような成功モデルが、どのようなかたちで出て、その事業がどういうふうに旅立っていけば、このプラットフォームが成功だと言えるのか、そこをどう運用するのか、かなり大事なポイントだと思う。

・動いていかないと、プラットフォームは分からないと思うが、プラットフォームに持ち込んでいただきたいような提案という場合に、例えば、この協働というのは、いろいろな主体をコーディネートして動かしていくということが、一番大変だと思う。プラットフォームに提案すると、こういうメリットがありますよということが広がっていけば、たくさん提案が出てくるのかなと思う。